

航空重大インシデント調査の経過報告について

平成18年 7 月 28日

国土交通省 航空・鉄道事故調査委員会

平成17年5月8日（日）、新千歳空港の南東約370km、高度約36,000ftで発生した、株式会社日本航空インターナショナル所属ボーイング式747-400型JA8072の航空重大インシデントについて、当委員会において重大インシデント発生以来、鋭意調査を進めてきところである。調査はほぼ終了しているが、米国に意見照会を行い、その回答が来るまでに時間を要すること等から、最終的に報告書を取りまとめるまでになお時間を要すると見込まれる。

しかしながら、同様事例により事故発生に至ることを防止する観点から、本重大インシデントの概要及び本重大インシデント調査の経過を報告し、公表することとした。

なお、本経過報告の内容については、今後更に新しい情報や状況が判明した場合、変更することがあり得る。

株式会社日本航空インターナショナル所属ボーイング式747-400型
JA8072に係る航空重大インシデント調査について
(経過報告)

1 航空重大インシデントの概要

- (1) 発生場所 新千歳空港の南東約370km、高度約36,000ft
- (2) 発生日時 平成17年5月8日11時41分ごろ
- (3) 運航者 株式会社日本航空インターナショナル (以下「同社」という。)
- (4) 航空機 型式 ボーイング式747-400型
国籍及び登録記号 JA8072 (以下「同機」という。)
製造年月日 1989年12月14日
- (5) 運航形態 同社定期47便
- (6) 出発地/目的地 ジョン・F・ケネディ国際空港/成田国際空港
- (7) 搭乗者数 乗務員19名、乗客355名計374名
- (8) 負傷者数 なし
- (9) 航空機の損傷 なし
- (10) 運航乗務員
機長 男性 55歳
技能証明 定期運送用操縦士技能証明書 (飛行機) 平成2年5月21日
限定事項 陸上多発機 ボーイング式747-400型
平成16年11月11日
第1種航空身体検査証明書
有効期限 平成17年9月12日
総飛行時間 10,457時間10分
最近30日間の飛行時間 40時間06分
- (11) DFDR及びCVR
同機には、DFDR及びCVRが搭載されており、本重大インシデント発生当時の記録は残されていた。
- (12) 概要
本件は、航空法施行規則第166条の4第10号に規定された「航空機内の気圧の異常な低下」に該当し、航空重大インシデントとして取り扱われることとなったものである。

同社所属ボーイング式747-400型JA8072は、同社の定期47便として、5月7日（土）、23時14分ジョン・F・ケネディ国際空港から成田国際空港へ向けて離陸した。航空路R220の位置通報点NODAN付近を高度約36,000ftで飛行中、平成17年5月8日（日）11時41分ごろ、客室内の与圧が低下した。客室高度が上昇し操縦室内で「CABIN ALTITUDE」が表示され、警報音が鳴ったため、運航乗務員は酸素マスクを装着して、緊急操作手順に従い乗客用酸素マスクを落下させた。管制機関に非常事態を通報し、高度36,000ftから10,000ftへ緊急降下した。目的地を変更し、12時41分、新千歳空港に着陸した。

2 重大インシデント調査の概要

航空・鉄道事故調査委員会は、平成17年5月8日、本重大インシデントの調査を担当する主管調査官ほか1名の航空事故調査官を指名した。また、平成17年5月10日、1名の航空事故調査官を追加指名した。

本調査には、本重大インシデント発生機の設計・製造国である米国の代表が参加した。

現時点までの主な調査事項は、以下のとおりである。

- (1) 現場調査及び機体調査
- (2) 関係者からの口述聴取
- (3) D F D R等の記録の解析
- (4) 同社の整備作業状況等の調査
- (5) アメリカ合衆国事故調査当局（NTSB）の協力による、本重大インシデント発生時同機に装備されていた与圧システム関係装備品の機能点検

3 参考事項

これまでの調査結果により判明した、本重大インシデントに関する参考情報は、以下のとおりである。

同機では、客室高度の上昇に伴い緊急操作が行われ、その結果、乗客、乗務員に負傷者はなく、また同機の損傷もなかった。

新千歳空港に着陸後に確認されたアウト・フロー・バルブの状況は、左が全開、右が全閉であった。

また、着陸後に行った同機での与圧システムのセルフテストにおいて、機能は回復しており不具合は認められなかった。

本重大インシデント発生時に同機に装備されていた与圧関係装備品の後日行われた機能点検においても不具合は発見されなかった。